

1983年出土の木簡

滋賀・東光寺遺跡



(京都東南部)

- 6 遺跡の種類 寺院跡・官衙跡
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 東光寺遺跡は、琵琶湖より流れ出る瀬田川の左岸、近江國府の北辺に近接して位置する。遺跡の中心部と考えられる大萱の集落は、近江國府域と同様に正方位の地割が現存しており、今回のマンション建設に先立つ発掘調査は、その南端の丘陵裾部の低湿地を対象に行つた。

調査の結果、上下二時期の遺構、遺物を検出した。

- 9 関係文献
- 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会『大津市東光寺遺

- 1 所在地 滋賀県大津市大萱二丁目
2 調査期間 一九八三年(昭58)一月~八月
3 発掘機関 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会
4 調査担当者 岡本武憲
5 遺跡の種類 寺院跡・官衙跡
6 遺跡の年代 白鳳~平安時代中期
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
8 東光寺遺跡は、琵琶湖より流れ出る瀬田川の左岸、近江國府の北辺に近接して位置する。遺跡の中心部と考えられる大萱の集落は、近江國府域と同様に正方位の地割が現存しており、今回のマンション建設に先立つ発掘調査は、その南端の丘陵裾部の低湿地を対象に行つた。

- 調査の結果、上下二時期の遺構、遺物を検出した。
- 9 関係文献
- 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会『大津市東光寺遺

一世紀後半の掘立柱建物一棟とそれを画するように人工溝が検出された。建物は八間(以上)×六間の総柱の南北棟と、四間×三間の総柱の東西棟である。呪符木簡が出土したのは前者の建物の北東隅に位置する柱穴からで、二段掘りになった柱穴の下部に直立して(1)が、その上部に二つ折れになって(2)が出土した。柱穴は直径40cm、深さ47cmである。また、この建物の東面には雨落溝が設けられており、呪符の出土した柱穴に近い溝内より桃の果核が二〇数個まとまって出土している。他に、柱穴や溝を中心に、多数の土師器、黒色土器、木器(木簡状木製品を含む)などが出土した。

なお、下層からも、多数の遺物とともに木簡状木製品が出土したが、未整理のため、発表できなかつた。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「〔墨線〕俱_{〔波尼〕}鬼急_{〔カ〕}如律令」
330×37×6
- (2) 「天足_{〔鬼カ〕}」
(265)×28×5

呪符木簡(1)は下端部が腐食のため変色しており、一時期、土中に立っていたものと思われる。(2)は二つ折れになつており、下端も欠損している。

（岡本武憲）

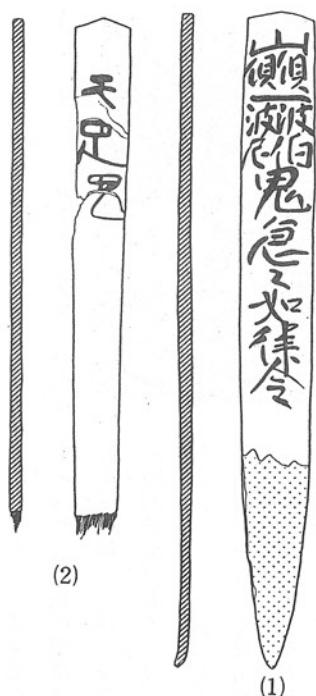
木簡研究 第四号

卷頭言 木簡保存法の思い出

坪井清足

一九八一年出土の木簡

坪井清足



(2)

(1)

- 一九七七年以前出土の木簡（四）
- 平城宮跡（第二二次南・第二七次・第二八次・第二九次）
呪符木簡の系譜
木簡と上代文学——水産物付札をめぐつて——
「漆紙文書」出土概要
- 和田 萃
小谷 博泰
佐藤宗諱

頒価 三五〇〇円 □ 四〇〇円

彙報